

『情報サイト』活用のための

WEB サーバ 構築マニュアル



～ Microsoft 社 Internet Information Service(IIS)で
イントラネット Web サーバを作る ～

Windows Server 2008 + IIS7.0

Windows Server 2003 + IIS6.0

Windows Server 2000 + IIS5.0

Ver 2.0 (2010.11.15 作成)
岩手県立総合教育センター 情報教育担当
<http://www1.iwate-ed.jp/>

目次

1	利用までの手続き (インストール)	1
(1)	利用するまでの流れ	1
(2)	操作手順	1
Step1	Web サーバソフト(IIS)のインストール	1
A	Windows Server 2008 および Windows7、Windows Vista	1
B	Windows Server 2003	3
C	Windows Server 2000	5
D	Windows XP Professional	6
Step2	Web サーバソフト(IIS)の設定	8
A	IIS の起動と停止	8
B	ホームディレクトリの変更	9
C	既定のドキュメントの設定	10
D	「ASP ファイル」の実行許可の設定	10
E	仮想ディレクトリの作成	11
F	バッファ処理の設定	14
Step3	コンポーネントのインストール	16
Step4	動作環境	17
Step5	「情報サイト」設定	18
A	ファイル・フォルダのアクセス権設定	18
B	ユーザ登録	20
C	メールサーバ設定	21
D	ネットショッピング・メール設定	21
E	ネットオークション・メール設定	22
F	プロフィールサイト管理者設定	23
G	ブログ管理者設定	24
H	Web メールシステム管理者設定	25
I	Mobile メールシステム管理者設定	26
2	トラブルシューティング	27
■	ブラウザの「更新」ボタンをクリックしても、画面表示が変化しない	27
■	特定のクライアント PC からページが閲覧できない	28
■	ファイルのアップロード時にエラーが表示される	29
■	IIS の動作確認の方法	32
■	すでに Web サイトが構築されている	33
■	サーバ PC 名を確認するには	35
■	掲示板、チャットでログにサーバ IP しか記録されない	36

[動作環境]

- サーバ OS : Windows Server 2008, R2 /
Windows Server 2003, R2 / Windows Server 2000
- クライアント OS : Windows 7 Enterprise / Windows Vista bussiness
Windows XP Professional
InternetExplorer8.0 / InternetExplorer7.0

(※) 上記の環境で、動作確認を行っています。

1

利用までの手続き（インストール）

インターネット上の Web ページを見るためのしくみはどのようになっているのでしょうか。閲覧する側（クライアント）からブラウザをとおして、閲覧したいサイトの URL を入力することにより該当のページが表示されます。

これは、「特定のコンピュータ」に「Web ページを表示させてくれ！！」という要求を出し、応答してもらっていることになります。したがって、閲覧する側の要求に対して応答する機能として、この「特定のコンピュータ」に『Web サーバ』を構築する必要があります。コンピュータにこのような機能を持たせるためには、『Web サーバソフト』をインストールが必要となります。

Web サーバソフトにも世界的に有名なフリーソフト「Apache」や日本語版の「AN HTTPD」、サッポロワークスの「BlackJumboDog」、そしてマイクロソフト社の「Internet Information Service (IIS)」などがあります。本テキストではマイクロソフト社の IIS を用いた Web サーバ構築を例示します。

(1) 「情報サイト」を利用するまでの流れ

次の Step1 ～ Step5 の手順でサーバの設定を進めます。

- Step1 Web サーバソフト (IIS) のインストール
- Step2 Web サーバソフト (IIS) の設定
- Step3 外部コンポーネント (Basp21) のインストール
- Step4 「情報サイト」ファイルのインストール
- Step5 「情報サイト」設定

(2) 操作手順

■ Step1 Web サーバソフト (IIS) のインストール

IIS は、Microsoft 社の各サーバ OS に付属していますが、標準ではインストールされていないので、追加してインストールする必要があります。また IIS のバージョンは異なりますが、サーバ OS だけではなく、Windows 7 や Windows Vista や Windows XP Professional や Windows 2000 Professional にも付属しています（機能制限あり）。

A Windows Server 2008 および Windows 7、Windows Vista の場合

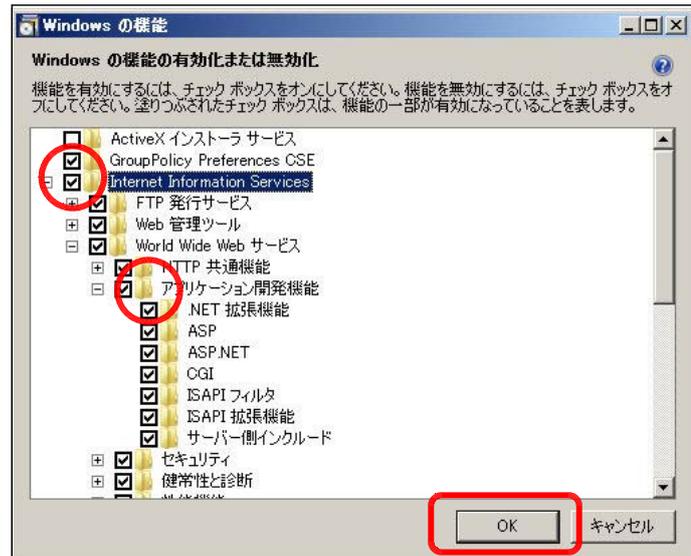
(a) [スタート] ボタンから[コントロールパネル]－[プログラムの追加と削除] をクリックします。

(b) 「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックします。



- (c) 「Internet Information Services」にチェックを入れます。さらに、[World Wide Web サービス] - [アプリケーション開発機能] - [ASP] にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックします。その後、インストールが進行します。

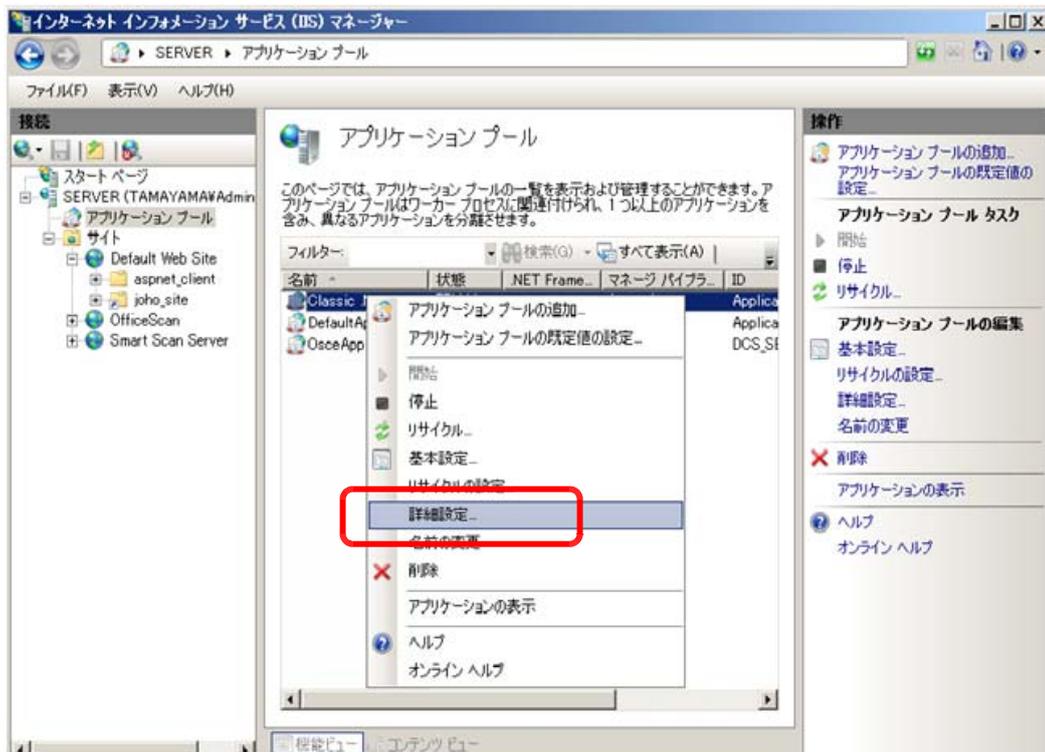
(注) この作業の途中で、OS のディスクが求められる場合がありますので、指示に従ってディスクをドライブに挿入してください。



Windows Server 2008 R2 (64bit 版) の補足事項

■ 32 ビットアプリケーションの有効化

1. IIS マネージャーを開き、ツリーの中からアプリケーションプールを選択します。
2. 中央ペイン内の [Classic.NET AppPool] を右クリックし、ショートカットメニューから「詳細設定...」を選択します (下図参照)。



3. 詳細設定ウィンドウが開きます。

4. 詳細設定ウィンドウ内の「32 ビットアプリケーションの有効化」の値を True へ変更します。

5. [OK] ボタンをクリックして、詳細設定ウィンドウを閉じます。

6. 同様に、「Default AppPool」の詳細設定の「32 ビットアプリケーションの有効化」の値を False から True へ変更します。



■ データベースエンジンの追加

Windows Server 2008 R2 では、標準で ODBC エンジンに SQL のみ搭載しています。このため Access 形式の DB を読み取ることができないようです。そこで、データベースエンジンを追加する必要があります。2010/03/24 現在では、Microsoft から提供されている、Windows Server 2008 R2 に対応したデータベースエンジンは、「2010 Office system Beta ドライバ：データ接続コンポーネント」になるようです。

提供は、以下の URL になります。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=c06b8369-60dd-4b64-a44b-84b371ede16d&displaylang=ja>

[14.0.4536.1000_AccessDatabaseEngine_none_ship_x86_ja-jp_exe¥AccessDatabaseEngine.exe] をダウンロードしてインストールします。

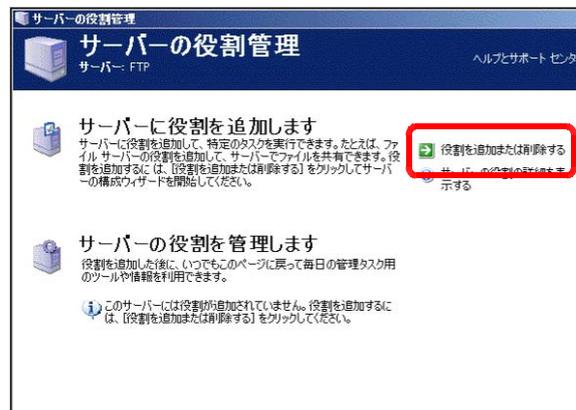
その後、IIS またはサーバを再起動します (サーバ再起動を推奨します)。

再起動後、http://サーバ名/joho_site/login.asp にログインし、正常に表示されることを確認します。

B Windows 2003 Server の場合

(a) [スタート] ボタンから [コントロールパネル] をクリックして、[サーバの役割管理] をクリックすると、[サーバの役割管理] ダイアログが表示されます。

サーバ OS として、学校に多く導入されています。サーバに機能追加して「Web サーバ」を構築します。



- (f) その後はダイアログのメッセージに応じて、[次へ] ボタンをクリックすると、インストールが進行します。



C Windows Server 2000 の場合

Windows Server 2003 と同様の手順で IIS のインストールを行います。インストール途中で CD を求められる場合がありますので、事前に準備してください。

インストールの手順の詳細は、次項の「WindowsXP」へのインストール方法で解説します。

D WindowsXP Professional の場合

WindowsXP はサーバ OS ではありませんが、「Professional 版」には IIS5.0 が付属しています。この IIS は同時接続 10 台という制限があるため、実際の運用には不向きですが、動作テスト用として利用するには十分です。

- (a) WindowsXP の「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」をクリックします。



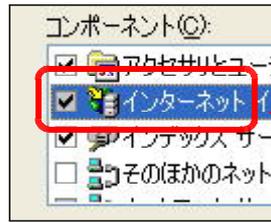
- (b) 「プログラムの追加と削除」をクリックします。



- (c) 「プログラムの追加と削除」ダイアログが表示されますので、「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。

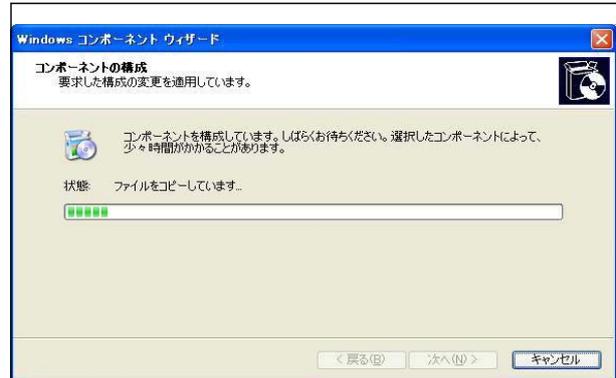


- (d) 「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログが表示されますので、[コンポーネント] 一覧の『インターネット インフォメーション サービス (IIS)』にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



- (e) インストールの進行状況が表示されますので、しばらく待ちます。

(注) ここで、WindowsXP の CD が求められる場合がありますので、指示に従って、CD をドライブに挿入してください。



- (f) 「Windows コンポーネント ウィザードの完了」が表示されますので、[完了] ボタンをクリックして、インストールは終了です。



- (g) 今、インストールした Web サーバソフトが正常に動作しているかを確認してみましょう。Internet Explorer のアドレスバーに以下の URL を入力し、図のようなページが表示されれば、Web サーバ機能が正常に動作しています。

http://localhost/
または http://127.0.0.1/



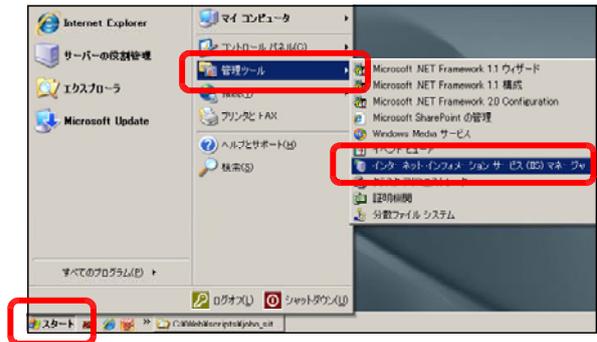
※ 「localhost」及び「127.0.0.1」は、Web サーバとなっているコンピュータ上から自分自身で公開している Web ページを閲覧するための特殊な指定方法です。

■ Step2 Web サーバソフト (IIS) の設定

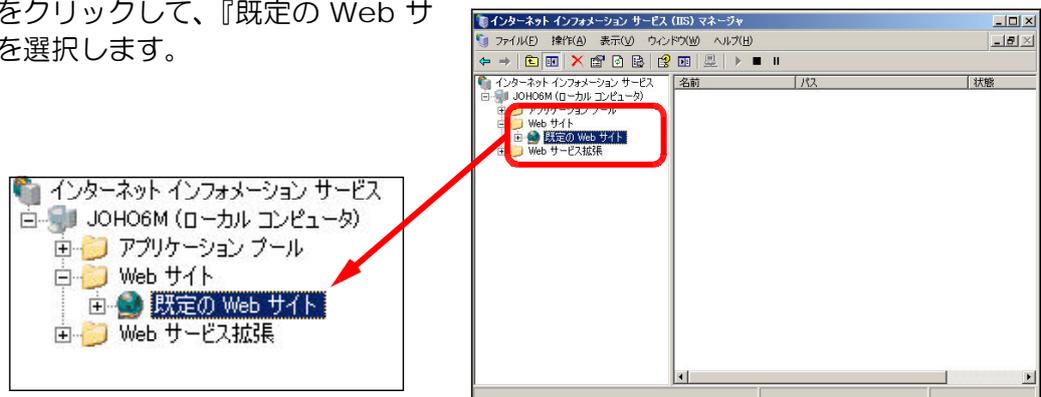
Step1 でコンピュータが Web サーバとして機能しました。さまざまな機能の追加や設定変更するパネル部分を確認しておきましょう。以下に Windows Server 2003 を例に示します。

A IIS の起動と停止

(a) Windows Server 2003 のデスクトップ画面から [スタート] → [管理ツール] → [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] をクリックします。



(b) 左側の [サービスアプリケーション] 内の「インターネット インフォメーション サービス」をクリックして、『既定の Web サイト』を選択します。



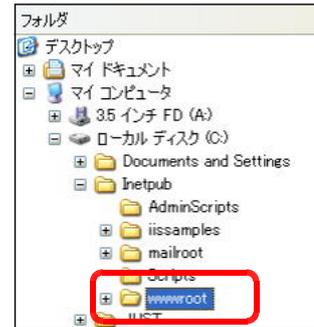
(c) ツールバーの■アイコンをクリックすると、IIS は停止します。



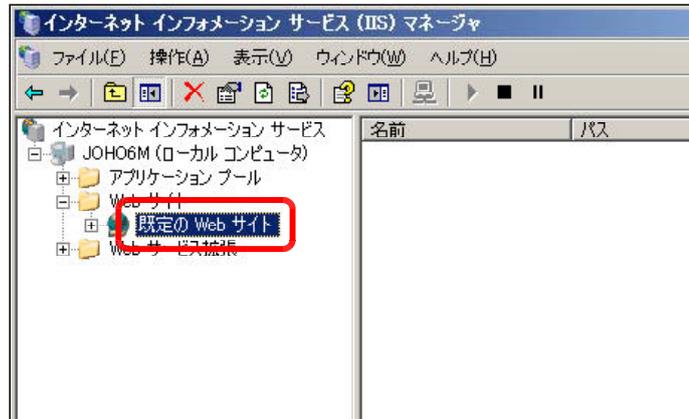
B ホームディレクトリの変更

Web サーバ内のどのフォルダを Web 公開するかを設定します。デフォルトでは、C ドライブ内の「Inetpub」→「wwwroot」フォルダ内が Web 公開される設定（ホームディレクトリ）となっています。

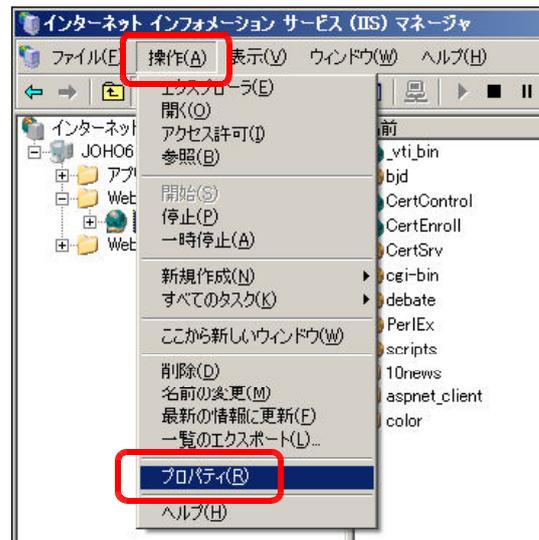
ここからは、『d:¥web』内を公開する設定に変更します。



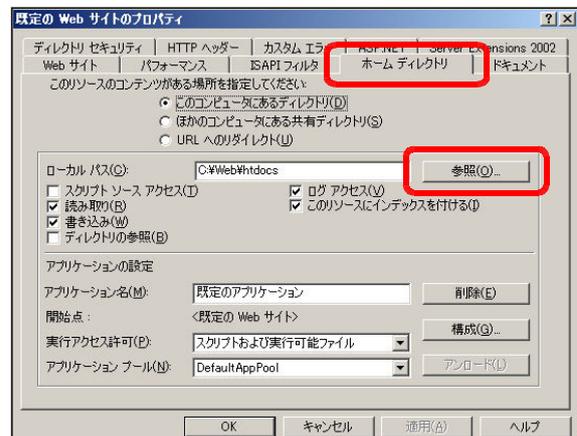
- (a) 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」ダイアログを表示させ、『既定の Web サイト』をクリックして選択します。



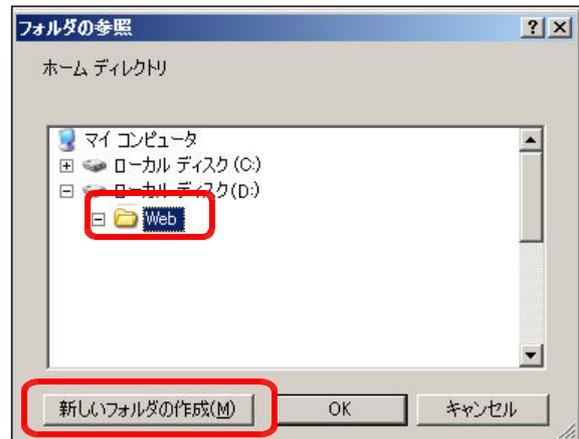
- (b) メニューから [操作] - [プロパティ] をクリックします。



- (c) 「既定の Web サイトのプロパティ」ダイアログが表示されますので、「ホームディレクトリ」タブをクリックします。



- (d) 「参照」ボタンをクリックします。Dドライブを選択し、「新しいフォルダの作成」ボタンをクリックして、『Web』と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



C 既定のドキュメントの設定

- (a) 「既定のサイトのプロパティ」ダイアログ内の「ドキュメント」タブをクリックします。



- (b) [追加] ボタンをクリックして、『index.html』と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

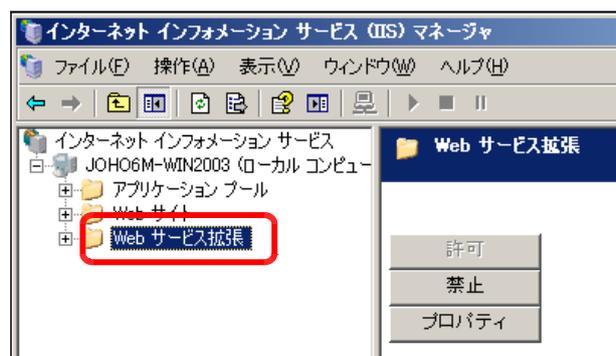


- (c) 追加された「index.html」を選択して、[上に移動] ボタンをクリックし、順位を最上位にします。[OK]ボタンをクリックして終了です。



D 「ASP ファイル」の実行許可の設定

- (a) [スタート] - [管理ツール] - [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックします。



- (b) [Web サービス拡張] をクリックします。

(c) [Active Server Pages] を選択して、[許可] ボタンをクリックします。これで、ASP ファイルの実行が許可されます。



E 仮想ディレクトリの作成

先に設定したホームディレクトリが Web 公開されますが、それ以外の特定のフォルダも [エイリアス] を用いて公開することができます。この作業を「仮想ディレクトリの作成」といいます。

(a) 「既定の Web サイト」上で右クリックから [新規作成] → [仮想ディレクトリ] をクリックします。



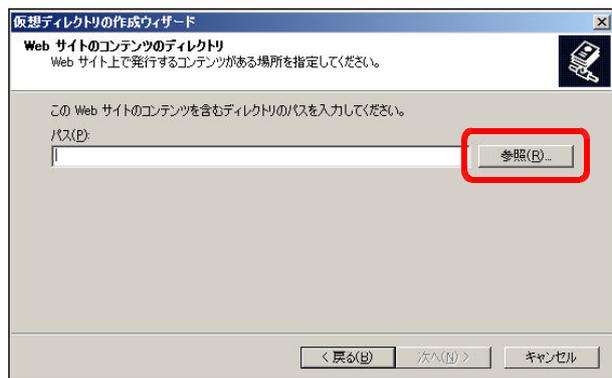
(b) 「仮想ディレクトリの作成ウィザード」が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



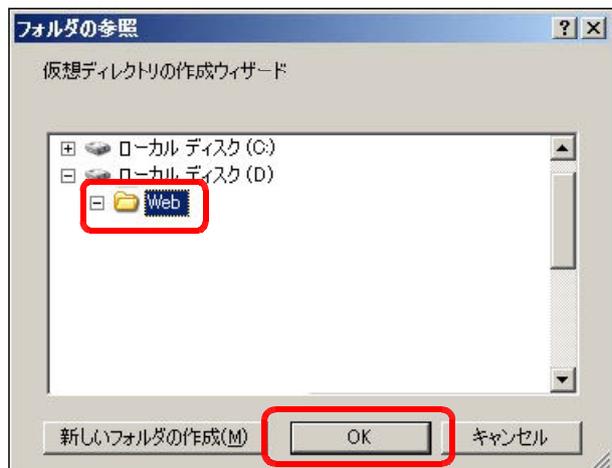
(c) エイリアス欄には『scripts』と入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



(d) ディレクトリ欄の [参照] ボタンをクリックします。

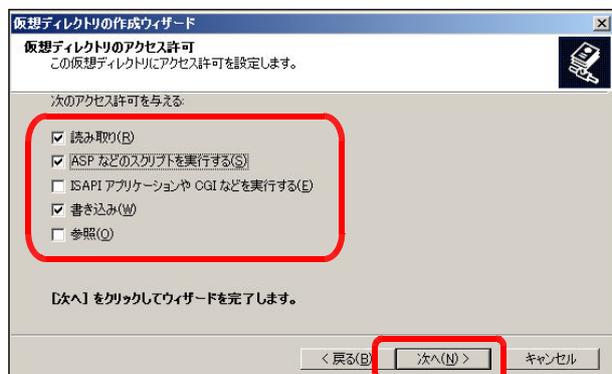


(e) [ローカルディスク(D)] 内の [Web] フォルダをクリックしてから、[新しいフォルダの作成] ボタンをクリックして、『scripts』フォルダを作成します。
その後、[OK] ボタンをクリックします。



(f) アクセス許可は、右のように、3つの項目にチェックを入れて、[次へ] ボタンをクリックすると完了します。

- 読み取り
- ASP などのスクリプトを実行する
- 書き込み



【表2】設定フォルダとURLの関係

種別	フォルダ	エイリアス	ファイル	URL(例)
ホームディレクトリ	d:¥web	なし	index.html	http:// <u>server_pc</u> /index.html
仮想ディレクトリ	d:¥web¥scripts	scripts	index.asp	http:// <u>server_pc</u> /scripts/index.asp

(※) 下線は、Web サーバのマシン名、または IP アドレス

<参考>-----

■ CGI とは? ■

CGI は正確には『Common Gateway Interface』といい、技術的には「Web サーバが外部プログラムを呼び出すための仕様」ということとなります。通常、Web ページを作成して公開すると、次のページの更新をするまでは公開されたページの内容は変わりません。ページを表示させる度に内容を変化させたり、ユーザーの要望に即したページを表示させるためには、プログラムを導入しなければなりません。

通常の HTML の場合と比較して、CGI プログラムの動作は、『ユーザーが CGI プログラムの URL をリクエストすると、Web サーバが CGI を通してそのプログラムを実行し、その実行結果をユーザーに返す』という手順が行われます。HTML

ファイルは『.html』、画像ファイルは『.gif』や『.jpg』と決まっているように、CGI プログラムにも特定の拡張子をつける必要があります。CGI 機能を使うと、

- フォームからの入力を受け取る (アンケート)
- サーバ上にあるファイルを読み込む (掲示板)
- サーバ上のファイルにデータを保存する (アクセスカウンター)
- プログラムで生成した文字などのデータを出力する (チャット)

等のことができます。このような CGI 機能を果たすプログラムにはさまざまなものがありますが、『PHP』、『Perl』、『C』、『Java』などが多く利用されていますが、ここでは、Microsoft 社の『ASP』技術を用いてプログラムを作成しています。

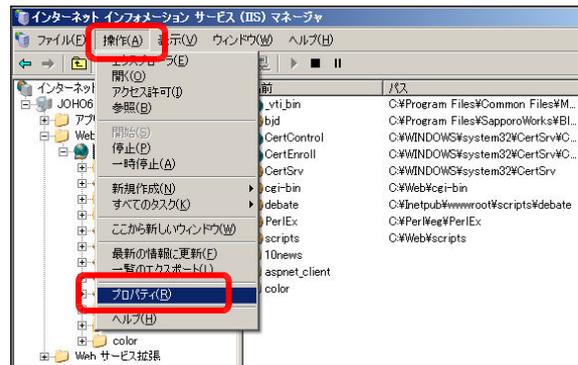
■ ASP とは? ■

ASP は、Microsoft 社が提供する Web サーバ、IIS (Internet Information Service) や PWS (Personal Web Server) 上で動作する「サーバサイドの処理環境」のことです。さらに ASP は、Java や VisualBasic のような固有の言語を指すものではなく、『.asp』ファイルに埋め込まれたスクリプト言語 (VBScript や JavaScript のような) をサーバ側で解釈し、外部のプログラム (COM) やデータベースと連携を取りながら、最終的な実行結果のみ (一般的には HTML) をクライアント側に返す一連の処理環境技術ということになります。

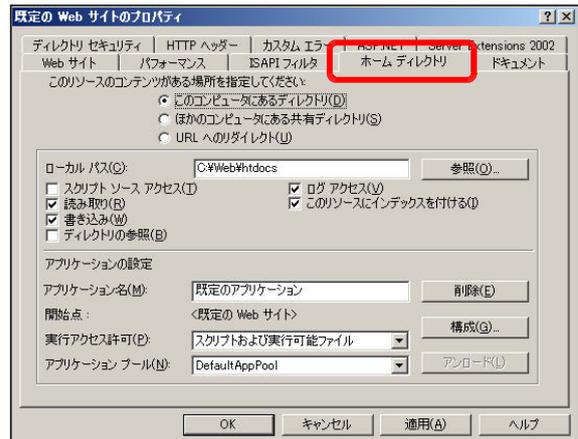
F バッファ処理の設定

■ Windows 2003 Server の場合

(a) [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ダイアログのメニューから [操作] - [プロパティ] をクリックします。



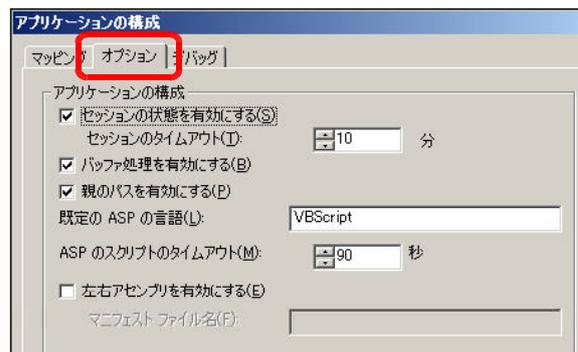
(b) [ホームディレクトリ] タブをクリックします。



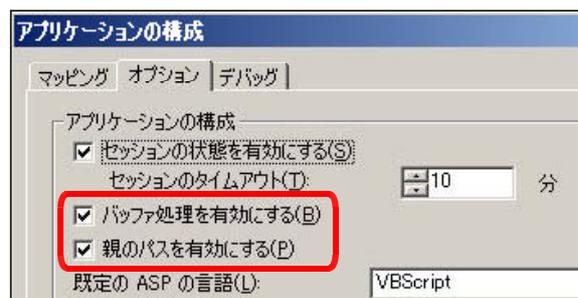
(d) [構成] ボタンをクリックします。



(e) [アプリケーションの構成] ダイアログが表示されますので、[オプション] タブをクリックします。



(f) [バッファの処理を有効にする(*1)]、[親のパスを有効にする(*2)] の両方にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックして設定終了です。

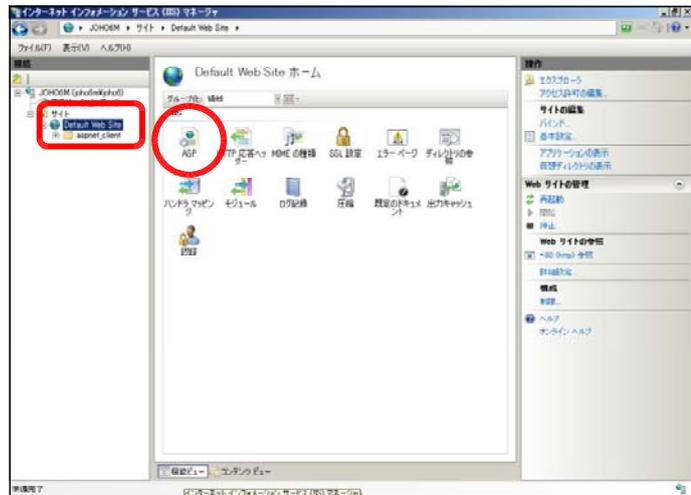


- (*1) Web サーバソフト (IIS) のバッファを有効にすることで、解析されたスクリプト (タグ) が即時にクライアントのブラウザに送られるのではなく、サーバに蓄積されスクリプトの終了と同時に送信されることで、パフォーマンスが向上します。
- (*2) Windows2000 Server では、[親のパスを有効にする] 項目は初期設定で「チェックオン」、Windows 2003 Server では「**チェックオフ**」となっていますので、環境に合わせて設定してください。

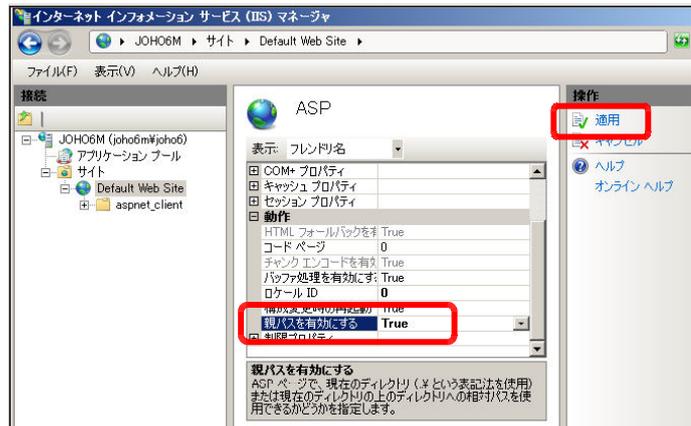
■ Windows 2008 Server の場合

(a) 「コントロールパネル」－ [管理ツール] － [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ] をクリックします。

(b) 「Default Web Site」をクリックして、[Default Web Site ホーム] から [ASP] をクリックします。



(c) 「親パスを有効にする」を「True」に変更して、[適用] ボタンをクリックして、設定完了です。



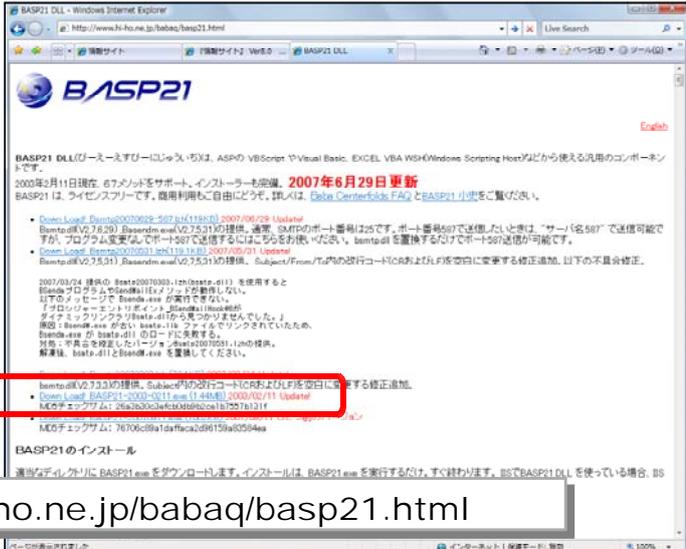
■ Step3 外部コンポーネントのインストール

ASP 自身にはメールを送受信する機能がありません。したがって、メールの送受信機能を利用する場合には、外部コンポーネントを使用します。例えば、無償で提供されている『Basp21』などがよく使われ、メール関連だけではなく、ファイルのアップロードなども実現することが可能になります。

この教材システム『情報サイト』では、「新規ユーザ登録」「ネット・ショッピング」や「ネット・オークション」などでメールの送信機能とファイルのアップロード機能、「教材倉庫」ではファイルのアップロード機能を利用することができますので、「Basp21」をインストールします。以下に「Basp21」のインストール手順を示します。

(a) 下記のサイトから、コンポーネントファイルをダウンロードします。

クリック



<http://www.hi-ho.ne.jp/babaq/basp21.html>

(b) ダウンロードした「BASP21-2003-0211.exe」をダブルクリックして、実行します。



(c) 「セキュリティ警告」ダイアログが表示されますので、「実行」ボタンをクリックすると、インストールが進行します。



(※) サイト内で「メール機能」、「ファイルのアップロード機能」を利用しない場合も、「Basp21」のインストールを行ってください。「Basp21」がインストールされていない状況では、エラーが表示される場合があります。

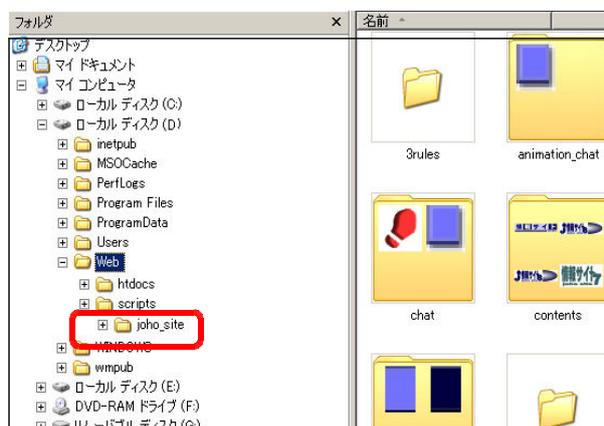
■ Step4 ソースファイルのインストール

Web サーバへソースファイルをインストールします。

- (a) 「情報サイト」CD を Web サーバの CD ドライブにセットします。



- (b) マイコンピュータを開いて、CD 内の『joho_site』フォルダを Web サーバ内の D:\web\script フォルダ内へコピーします。これでインストールは完了です。



- (c) 次にインストールした「情報サイト」の動作確認をします。以下の URL を入力してログイン画面が表示されれば、Web サーバは正常に機能しています。

http://server_pc/scripts/joho_site/login.asp

(※) 下線は、Webサーバのマシン名、または IP アドレス

うまく、表示がされない場合には、「2 トラブルシューティング (p.27)」を確認してください。



■ Step5 「情報サイト」設定

『情報サイト』のインストールに続いて、「ファイル・フォルダのアクセス権設定」・「ユーザ登録」を行います。以下の設定は機能を利用する場合に行ってください。

「メールサーバ設定」／「ネットショッピング・メール設定」／「ネットオークション・メール設定」
／「プロフィールサイト管理者設定」／「ブログ管理者設定」／「Web メールシステム管理者設定」
／「Mobile メールシステム管理者設定」

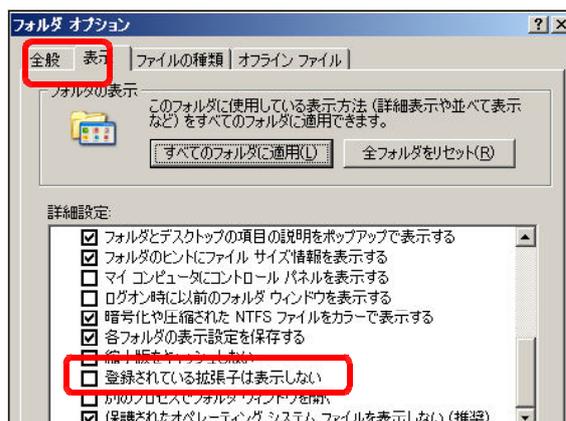
A ファイル・フォルダのアクセス権設定

(a) [スタート] から [マイコンピュータ] をクリックします。

(b) メニューから [ツール] - [フォルダオプション] をクリックします。



(c) [フォルダオプション] ダイアログが表示されますので、[登録されている拡張子は表示しない]のチェックを外します。
[OK] ボタンをクリックします。



(d) D:¥web¥scripts を選択します。



(e) 「joho_site」フォルダを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



(f) 「joho_site のプロパティ」ダイアログが表示されますので、[セキュリティ] タブをクリックして、[追加] ボタンをクリックします。



(g) [ユーザまたはグループの選択] ダイアログが表示されますので、[詳細設定] ボタンをクリックします。



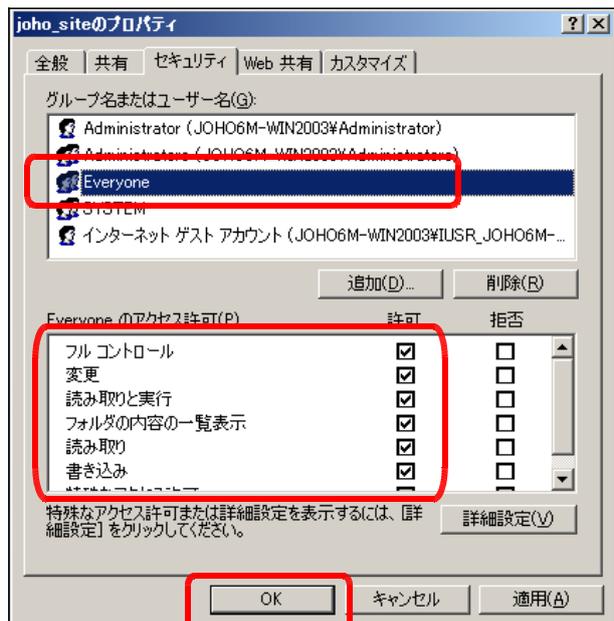
(h) [今すぐ検索] ボタンをクリックして、「Everyone」を選択して、[OK] ボタンをクリックします。



(i) [ユーザーまたはグループの選択] ダイアログに戻りますので、[OK] ボタンをクリックします。[joho_site のプロパティ] ダイアログに「Everyone」が追加されていることを確認してください。

さらに、[フルコントロール]・[変更]・[読み取りと実行]・[書き込み] にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックします。

- 「フルコントロール」にチェック
- 「変更」にチェック
- 「読み取りと実行」にチェック
- 「書き込み」にチェック



B ユーザ登録

『情報サイト』にログインするためには、管理者によって事前にユーザ登録をする必要があります。1ユーザごとに登録する方法と複数のユーザを一括して登録する方法があります。以下に1ユーザごとに登録する方法を示します。ただし、すでに登録済みのユーザがありますので、これらのユーザで『情報サイト』利用することができます。登録されているユーザの一覧は、「joho_site」フォルダ内の「サンプルユーザ.xls」に記載されています。

- (a) 以下の URL をブラウザに入力して、「情報サイト」管理者ページのログイン画面を表示させます。

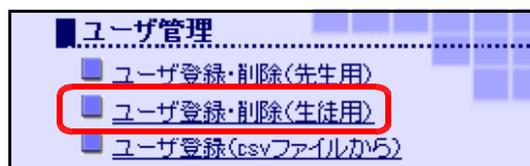
http://server_pc/scripts/joho_site/admin.asp
(※) 下線部は、サーバ名、または IP アドレスを示します。

- (b) 「情報サイト」の管理者権限の [ユーザ ID] ・ [パスワード] を入力して、[認証] ボタンをクリックします。



■ユーザ ID : administrator
■パスワード : webadmin

- (c) 「情報サイト」管理者ページが表示されますので、[ユーザ管理] - 「ユーザ登録・削除 (生徒用)」をクリックします。



- (d) [ユーザ登録 (生徒用)] 画面が表示されますので、[表示] ・ [ユーザ ID] ・ [パスワード] ・ [年] ・ [クラス] ・ [番] にそれぞれユーザ情報を入力して [登録] ボタンをクリックすると、登録一覧表 (児童・生徒用) に追加されます。必要なユーザをここで登録します。



ユーザ情報を入力します。

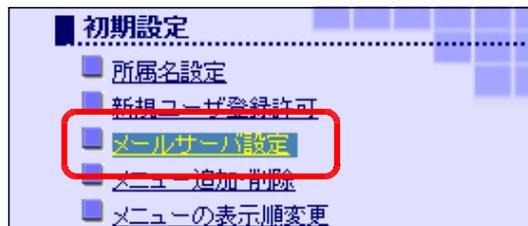
[表示] ・ [ユーザ ID] ・ [パスワード] ・ [年] ・ [クラス] ・ [番]

(注) 『情報サイト』は、標準でサンプルユーザが登録されています。
「joho_site」フォルダ内の「サンプルユーザ.xls」の一覧を確認ください。

C メールサーバ設定

「情報サイト」では、新規ユーザ登録の際にメール機能を利用します。ここではそのためのメール関連の設定を行います。なお、メール機能を利用しない場合は、以下の設定は必要ありません。

- (a) 「情報サイト」管理者ページから「初期設定」－「メールサーバ設定」をクリックします。



- (b) 「サイト URL」・「Mail サーバ名」・「Mail アドレス名」を入力して、「更新する」ボタンをクリックします。

■サイトURL:	<input type="text" value="http://joho6m/scripts/joho_site/"/>
■Mailサーバ名:	<input type="text" value="mail.center.iwate-ed.jp"/>
■Mailアドレス名:	<input type="text" value="js_master@center.iwate-ed.jp"/>
<input type="button" value="変更する"/>	

■サイト URL：設置した「情報サイト」のホーム URL を入力。 例) http://server_PC/scripts/joho_site/ (注) 下線部はサーバ名、または IP アドレス
■ Mail サーバ名：「情報サイト」で利用するメールサーバ名、 または IP アドレスを入力。 例) mail.ainaa.com または 192.168.11.34
■ Mail アドレス名：「情報サイト」で利用する管理者用のメールアドレスを入力。 例) master@ginga.com

D ネットショッピング・メール設定

- (a) 以下の URL をブラウザに入力して、「ネット・ショッピング」ページを表示させます。

<p>http://<u>server_pc</u>/scripts/joho_site/cart/disp_product.asp (※) 下線部はサーバ名、または IP アドレス。</p>
--

- (b) メニューから「ログイン」をクリックします。



(c) 管理者権限の「ID」「パスワード」でログインします。

■ ID : admin
■ パスワード : admin

すでにユーザー登録をされている方はこちらから↓

■ ID:

■ パスワード:

(d) メニューから [メール設定] をクリックします。



(e) ユーザー登録用と利用明細用メールをそれぞれ登録します。

IHATOV
イーハトーブ・ショッピング

メール設定

メール設定 | 商品情報編集 | 商品追加 | 商品削除 | ユーザ管理 | ユーザー一括登録 | 注文管理 | 商品検索 | 買い物レ...

No	メールサーバ名	メールアドレス	メールタイトル	備考
1	10.94.250.156	master@ginga.com	IHATOV shoppingユーザー登録完了のお知らせ	<input type="button" value="更新する"/>
2	10.94.250.156	master@ginga.com	【確認】IHATOV shoppingご利用明細のお知らせ!	<input type="button" value="更新する"/>

※ 「メールサーバ名」には、「サーバ名」または「IP アドレス」を入力します。

E ネットオークション・メール設定

(a) 以下の URL をブラウザに入力して、「ネット・オークション」の商品一覧ページを表示させます。

http://server_pc/scripts/joho_site/auction/prod_list.asp
(※) 下線部はサーバ名、または IP アドレス。

(b) メニューから [ログイン] をクリックします。



(c) 管理者権限ユーザでログインします。

■ ユーザー ID : administrator
■ パスワード : admin

Johomita! AUCTIONS

ID:

password:

Copyright (C) 2006 Johomita! Auction Corporation. All Rights Reserved.

(d) [mail 設定 (user)] をクリックします。



(e) [メールサーバ名]・[送信元メールアドレス]・[件名] を変更して、[更新] ボタンをクリックします。

■ ユーザ登録用メールサーバ&メールアドレス設定

(※)変更のある場合は、修正をして、[変更]ボタンをクリックしてください。

■メールサーバ名:	mail@ginga.com
■送信元メールアドレス:	master@ginga.com
■件名:	ユーザ登録完了のお知らせです
■添付ファイル:	なし

(※) 同様に、[mail 設定 (落札)] の設定も行います。



【メール設定】

以下の各項目を設定します。設定には、実習室内で利用可能なメールアカウントでの設定が望ましいと思われます。

- メールサーバ名・・・実習室内でのみ利用可能なメールサーバの指定が望ましい。
- 送信元メールアドレス・・・独自のメールアカウントが望ましい。
例) mail@ginga.com
- 件名・・・・・・・・・・・・ユーザ登録完了をお知らせする件名を入力する。
例) Joho-mita!? Auction ユーザ登録完了のお知らせ

F プロフィールサイト管理者設定

(a) 以下の URL にアクセスします。

http:// (サーバ名) /scripts/joho_site/prof/supperAdmin.asp

(b) テキストボックスに、以下のパスワードを入れて、[認証] ボタンをクリックします。

プロフィールサイトシステム
管理者パスワード： admin (半角)

管理者ページ

■ password
admin

(c) 認証されると、管理者ページが表示されます。利用環境に合わせて、以下の項目を入力して、[変更] ボタンをクリックして、設定を変更します、

<p>■ ServerName ・ ・ メールサーバ名または IP アドレス 例) 192.168.11.34</p> <p>■ AccessWebPageURL ・ ・ touroku.asp ページへのフルパス 例) http://192.168.11.34/scripts/joho_site/prof/tourouku.asp</p> <p>■ Master mailAddress ・ ・ 管理者用メールアドレス 例) master@ginga.com</p> <p>■ mailTitle ・ ・ メールタイトル 例) 「プロフィール」新規作成</p> <p>■ indexURL ・ ・ プロフのホーム URL 例) http://192.168.11.34/scripts/prof/</p> <p>■ system ・ ・ メール利用の有無 例) 「しない」にチェック</p>	<p>管理者ページ</p> <p>■ ServerName 192.168.11.34</p> <p>■ AccessWebPageURL http://192.168.11.34/scripts/joho_site/prof/tourouku.asp</p> <p>■ Master mailAddress master@ginga.com</p> <p>■ mailTitle 「プロフィール・サイト」新規登録</p> <p>■ indexURL http://192.168.11.34/scripts/joho_site/prof/</p> <p>■ system(メール利用) <input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない</p> <p>[変更]</p>
--	--

G ブログ管理者設定

(a) 以下の URL にアクセスします。

http:// (サーバ名または IP アドレス) /scripts/joho_site/blog/sysAdmin.asp

ユーザ ID : administrator
 パスワード : webadmin

■風呂具(ふるく)管理者ページ■

ユーザID:

パスワード:

(b) システム管理者用の ID とパスワードを入力して、[Login] ボタンをクリックすると、[システム設定] ページが表示されます。

(c) 「ブログシステムのホーム URL」「管理者用メールアドレス」「メールサーバ IP」「メール利用」の有無を入力し、[更新する] ボタンをクリックします。

風呂具(ふるく) システム設定

■homeURL:

■master Address:

■mailServerIP:

■メール利用:

■ homeURL ・ ・ ・ ブログシステムのホーム URL
 例) http://192.168.11.34/scripts/joho_site/blog/

■ masterAddress ・ ・ ・ ・ 管理者用メールアドレス
 例) master@ginga.com

■ mailServerIP ・ ・ ・ ・ メールサーバの IP アドレス
 例) 192.168.11.34

■ メール利用 ・ ・ ・ ・ メール利用の有無
 例) 「使用する」を選択

H Web メールシステム管理者設定

(a) 以下の URL にアクセスします。

http:// (サーバ名または IP アドレス) /scripts/joho_site/WebMail/login.html

【管理者権限のユーザ ID とパスワード】

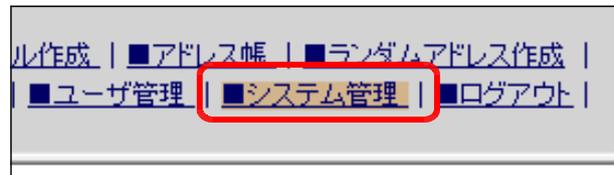
ID : master

パスワード : master

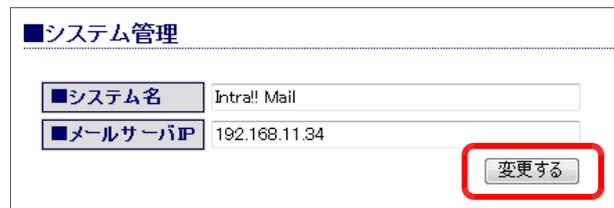


(b) 管理者権限の ID とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。

(c) [システム管理] をクリックします。



(d) 「システム名」「メールサーバ IP」欄にそれぞれ入力して、[変更する] ボタンをクリックします。



(e) [ユーザ管理] をクリックします。



(f) 「UserID」「password」「Mail Address」「表示名」欄にそれぞれ利用するユーザ情報を入力し、[新規登録] ボタンをクリックします。



UserID	password	Mail Address	表示名	etc
kitakami	kitakami	kitakami@singa.com	北上人	

I Mobile メールシステム管理者設定

(a) 以下の URL にアクセスします。

http://（サーバ名または IP アドレス）/scripts/joho_site/MobileMail/mmAdmin.asp

(b) 「メールサーバ IP アドレス」「管理者メールアドレス」欄にそれぞれ入力して、
[変更] ボタンをクリックします。

メールサーバIPアドレス	192.168.11.34	変更
管理者メールアドレス	master@ginga.com	変更

2

トラブルシューティング

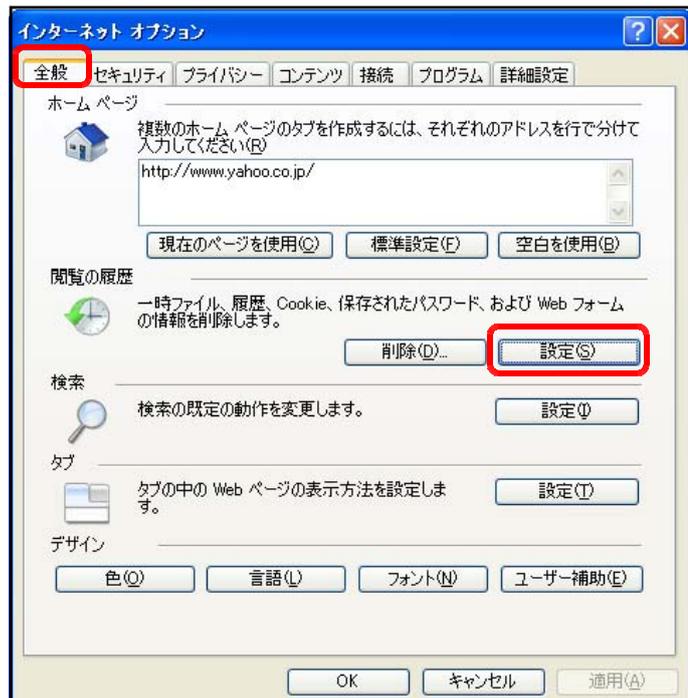
■ブラウザの [更新] ボタンをクリックしても、画面表示が変化しない。

(原因) ブラウザのキャッシュからページデータを読み込んで表示しており、サーバ上の新しいデータを読み込んでいない。

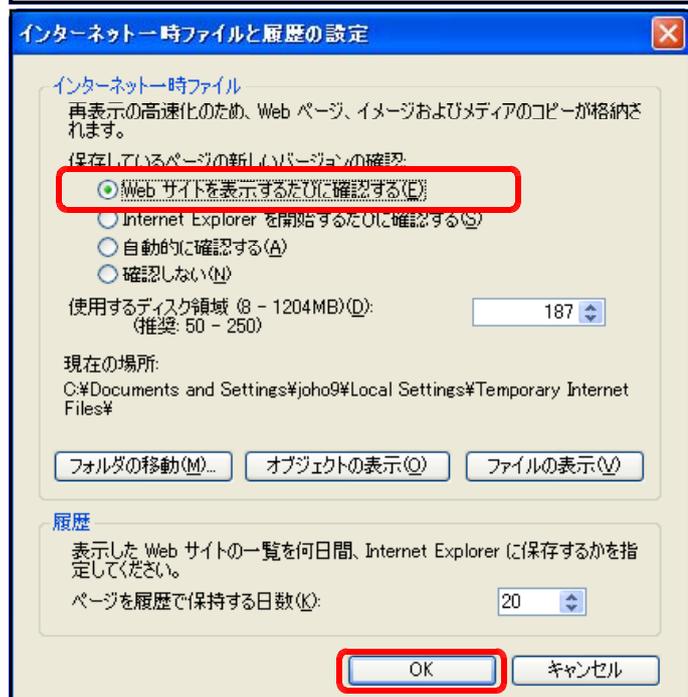
(対策) クライアントブラウザのページキャッシュの設定変更をします。

(1) ブラウザ Internet Explorer のメニューから [ツール] - [インターネットオプション] をクリックします。

(2) [全般] タブをクリックして、[閲覧の履歴] の [設定] をクリックします。



(3) [Web サイトを表示するたびに確認する] にチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。



(4) 再度、[更新] ボタンをクリックして、ページが変更されるかを確認します。

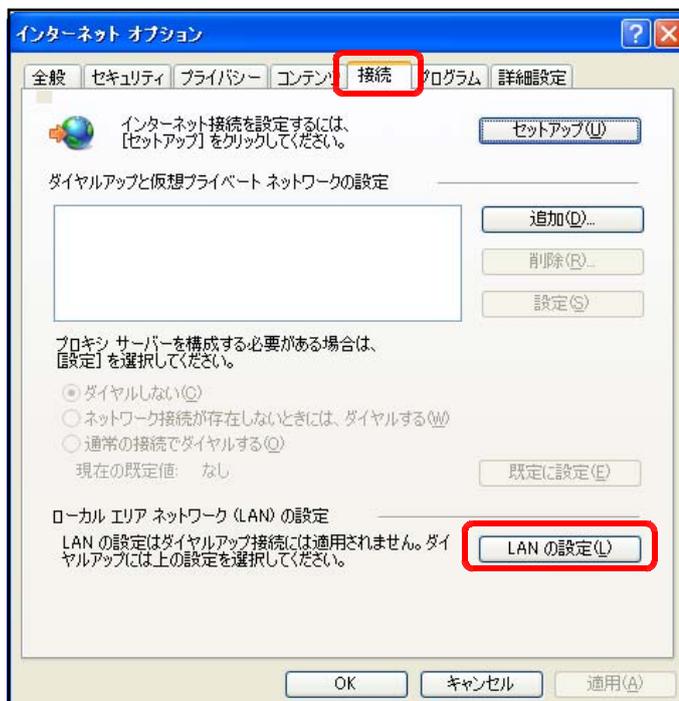
■特定のクライアント PC からページが閲覧できない。

(原因) クライアントブラウザのプロキシサーバ設定がローカルアドレスに対してもプロキシサーバを利用する設定となっているため。

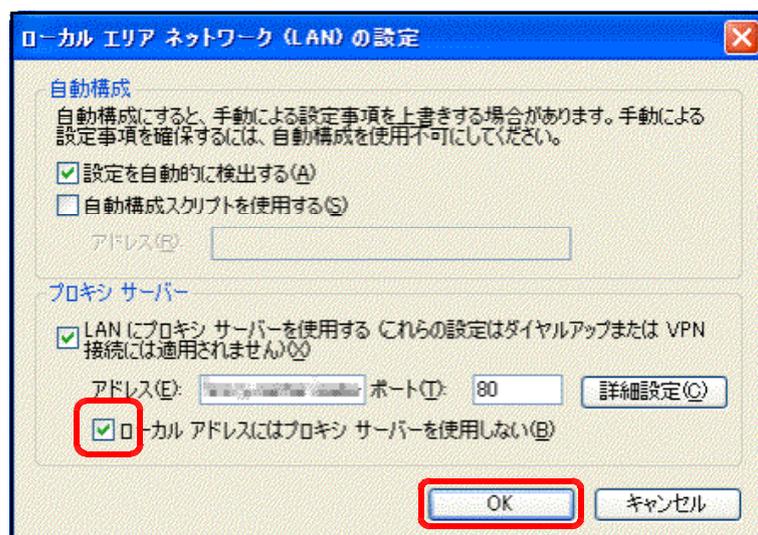
(対策) クライアントブラウザのプロキシサーバの設定を変更します。

(1) Internet Explorer のメニューから [ツール] - [インターネットオプション] をクリックします。

(2) [接続] タブをクリックし、[LAN の設定] ボタンをクリックします。



(3) [ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない] にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックします。



■ファイルのアップロード時にエラーが表示される。

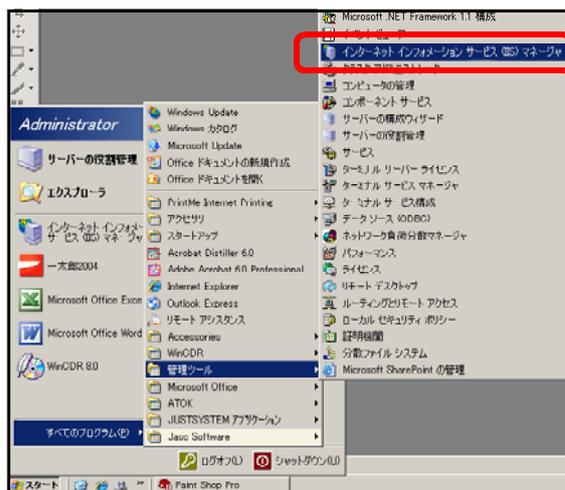
(原因) Windows 2003 Server + IIS6 の初期設定では、ファイルのアップロードの最大値は約 200KB に制限されていますので、この最大値を超えた容量のファイルをアップロードしようとしている。

(対策) この最大値を変更するには、

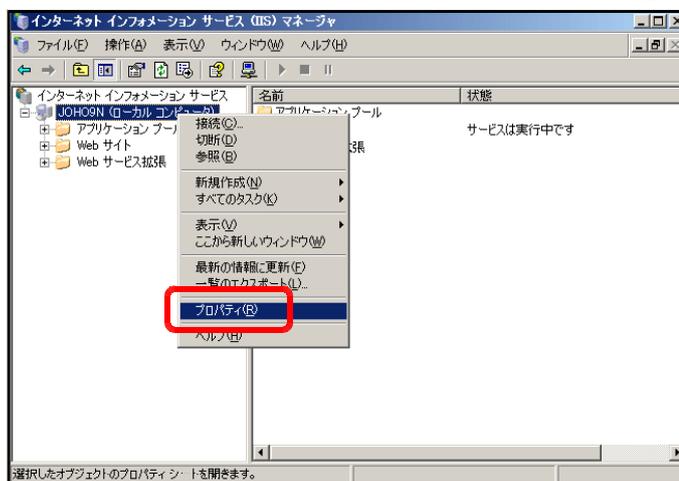
c:\¥windows¥system32¥inetsrv¥MetaBase.xml ファイルの
AspMaxRequestAllowed="204800" の下線部を変更します。

(対応：Windows 2003 Server の場合)

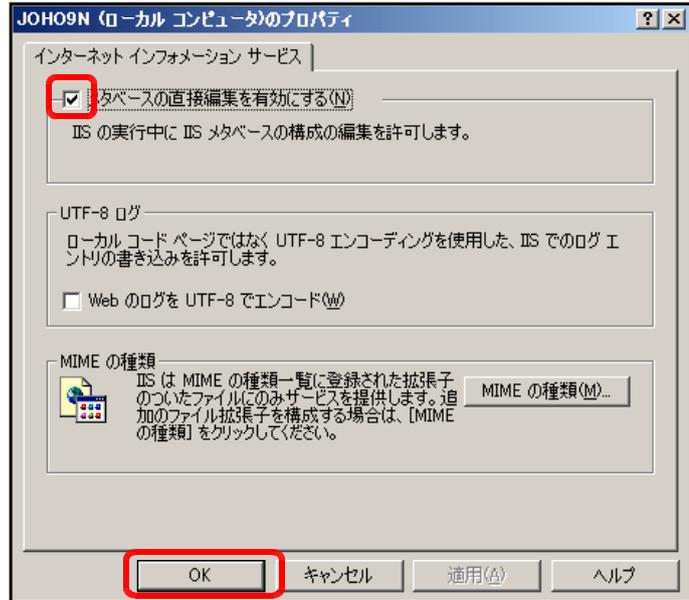
1. [スタート] - [すべてのプログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ] をクリックします。



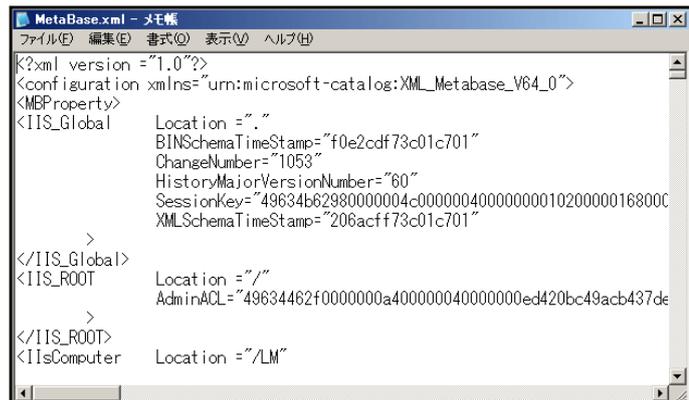
2. インターネットインフォメーションサービスの [ローカルコンピュータ] 上で右クリックから [プロパティ] を選択します。



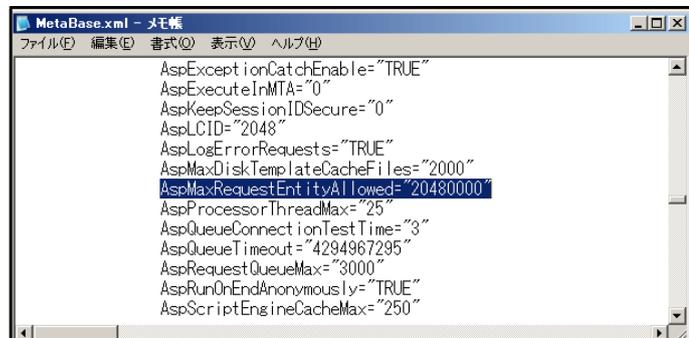
3. [メタベースの直接編集を有効にする] にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックします。



4. マイコンピュータから以下のファイルを [メモ帳] から開きます。
 c:\¥windows¥system32¥inetsrv¥MetaBase.xml



5. [AspMaxRequestAllowed] プロパティの値を適宜、変更し、上書き保存します。この値の変更によって、アップロード時のファイル容量が変更されます。



■ デフォルト (初期値) : 204800	→	約 200KB
2048000	→	約 2MB
20480000	→	約 20MB

(Windows Server 2008 の場合)

IIS7.0 では、MetaBase.xml 単一の管理から、それぞれ別のコンフィグ管理に移行されました。また、IIS 動作中の直接記述変更が IIS6.0 より難しくなりました。

その代わりに、IIS7.0 がインストールされると設定変更用のコマンドラインツール「appcmd.exe」が提供されている。以下のコマンドで変更可能になります。

(約 20MB の容量に設定)

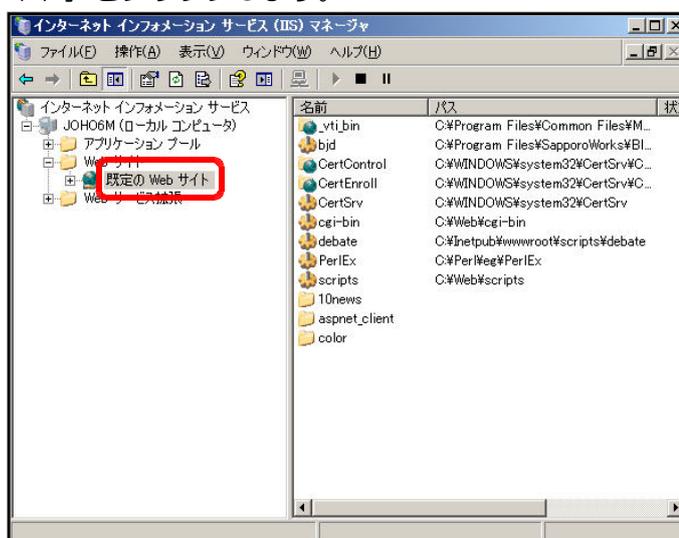
```
c:¥Windows¥System32¥inetsrv> appcmd set config -section:asp  
-limits.maxRequestEntityAllowed:20000000
```

■ IIS の動作確認の方法

- (1) [スタート] から [管理ツール] から [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ] をクリックします。



- (2) [コンピュータの管理] ダイアログが表示されますので、[インターネットインフォメーションサービス] - [既定の Web サイト] をクリックします。



- (3) ツールバーで図のように「起動」状態になっていることを確認してください。

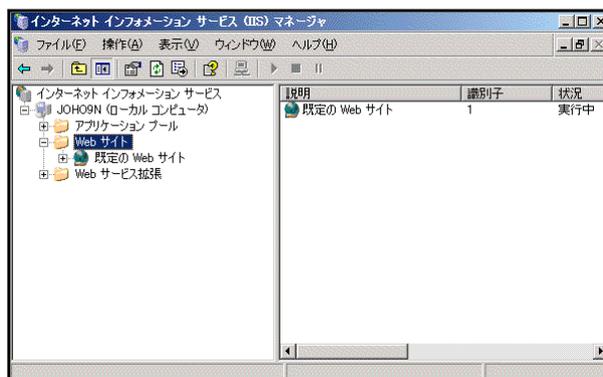


■すでに Web サイトが構築されている。

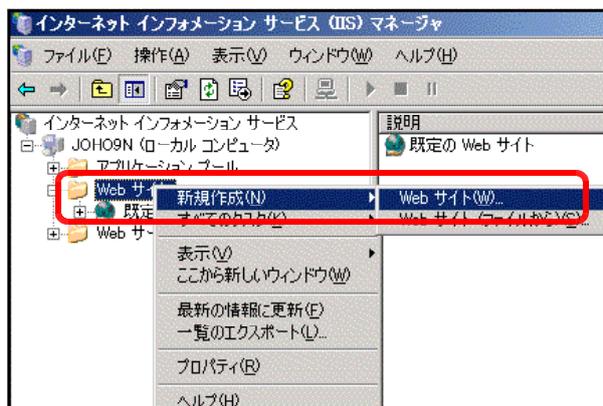
IIS がすでに構築されている場合には、他のアプリケーションが IIS を利用している可能性があります。この場合は、ポート番号を変更して新規に Web サイトを構築することで、すでにインストールされているアプリケーションに影響を与えずに運用することができます。

Windows 2003 Server でポート番号を変えて、複数の Web サイトを構築する手順を以下に示します。

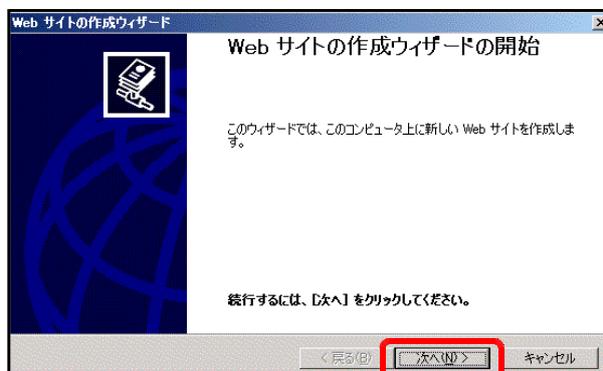
- (1) [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を開きます。



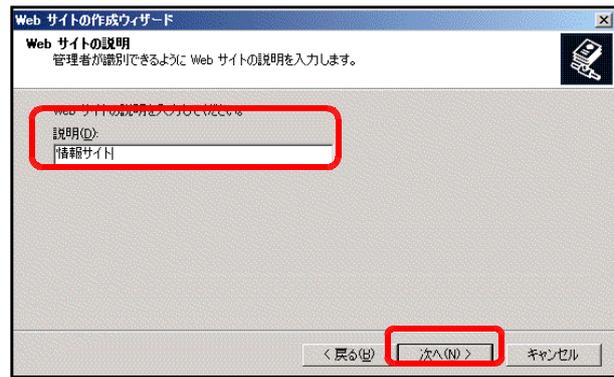
- (2) [Web サイト] 上で右クリックから [新規作成] - [Web サイト] をクリックします。



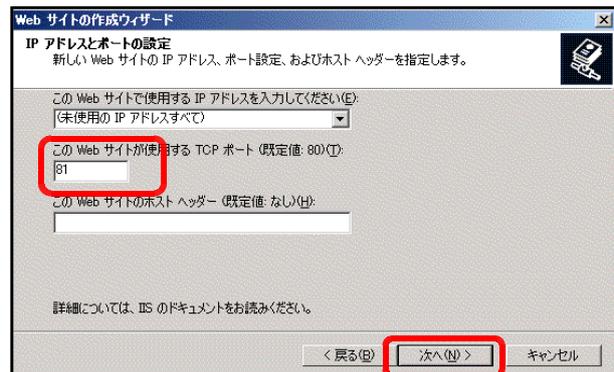
- (3) [Web サイトの作成ウィザード] ダイアログが表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



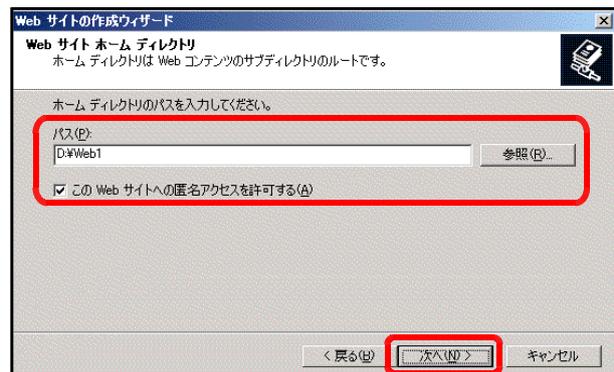
- (4) [説明] 欄に「情報サイト」と入力して、[次へ] ボタンをクリックします。



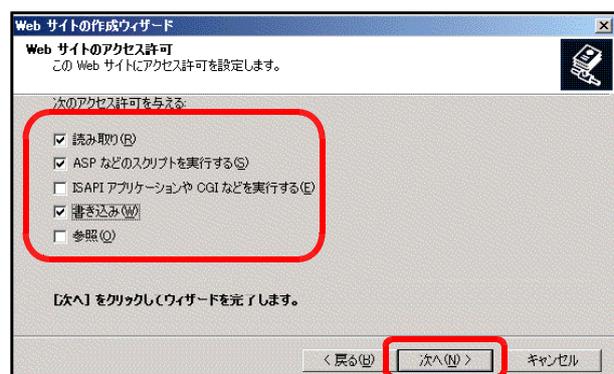
- (5) [TCP ポート] 欄に「81」^(注1) を入力して [次へ] ボタンをクリックします。



- (6) [参照] ボタンをクリックして、d:\¥web1^(注2) フォルダを指定します。
[次へ] ボタンをクリックします。



- (7) [読み取り]、[ASP などのスクリプトを実行する]、[書き込み] にチェックを入れて、[次へ] ボタンをクリックします。



(注1) ポート番号は、データの入出力のために通常、特定の番号は既定として利用されているものがあります。(例) ポート番号 80 : http など

(注2) 事前に D ドライブに [Web1] フォルダを作成しておきます。

- (8) これで Web サイトの構築が完了しましたので、[完了] ボタンをクリックします。



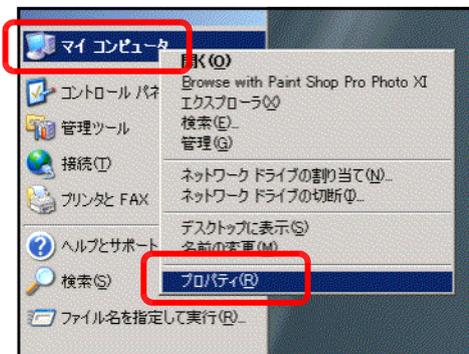
- (注) 上記のようにして構築した Web サイトは、通常 TCP ポート 80 番であるところを 81 番に変更したので、以下のようにアドレスも変更になります。

`http://server_pc:81/`

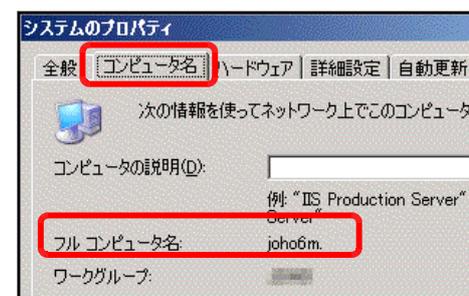
(※) 下線部はサーバ名。

■サーバ PC 名を確認するには。

- (1) [マイコンピュータ] アイコン上で右クリックから [プロパティ] をクリックします。



- (2) [コンピュータ名] タブをクリックして、[フルコンピュータ名] に記載されている文字列が、「サーバ PC」になります。



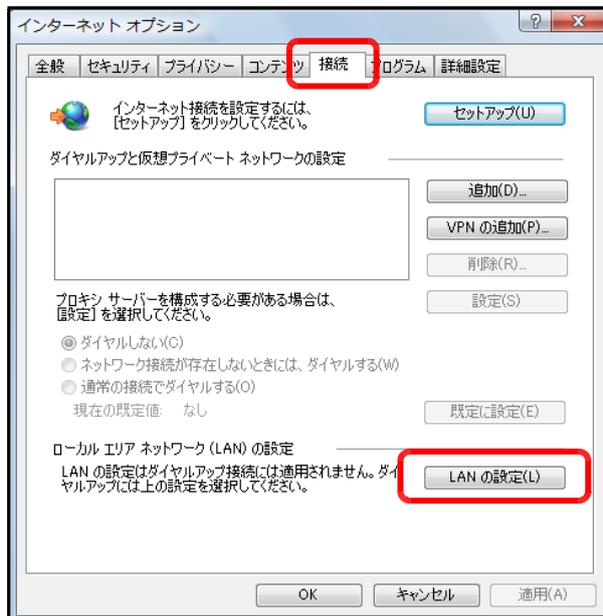
- (注) ただし、別途、サーバがネットワーク内の DNS サーバによって、特定の名称が指定されている場合もあります。

■ 掲示板、チャットでログにサーバ IP しか記録されない。

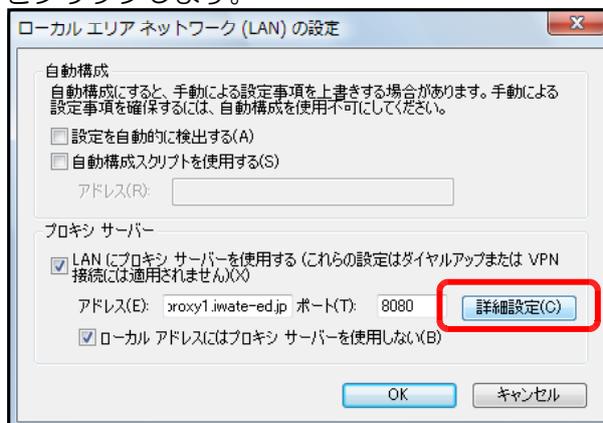
(原因) Web サーバ PC に同時にプロキシサーバが構築されている。

(対策) ブラウザの設定において、Web サーバ PC の IP アドレスを例外設定する。

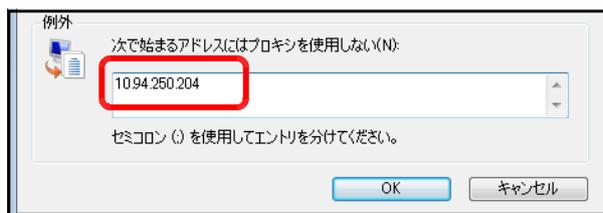
- (1) Internet Explorer のメニューから [ツール] - [インターネットオプション] - [接続] タブをクリックし、[LAN の設定] ボタンをクリックします。



- (2) プロキシサーバの [詳細設定] をクリックします。



- (3) [プロキシの設定] ダイアログの [例外] に、Web サーバ PC の IP アドレスを入力して、[OK] ボタンをクリックします。





岩手県立総合教育センター
情報教育担当
平成22年11月15日